

令和7年度生駒市総合計画審議会 第一部会 第1回会議録

開催日時 令和7年5月2日（金） 13時30分～15時40分

開催場所 生駒市役所4階 403・404会議室

出席者

（委員）高取委員、大谷委員、清水委員、中垣委員、松山委員、塗本委員

（事務局）井上経営企画部長、牧井企画政策課長、粉家企画政策課主幹、白川企画政策課企画係長

（担当課）藤川地域コミュニティ推進課長、大垣市民活動推進センター所長、西野図書館長、錦図書館主査、甫田生涯学習課長、福田生涯学習課主幹、西スポーツ振興課長、久保南分署長、後藤人権施策課長、武元人権施策課課長補佐、福山ダイバーシティ推進プラザ所長

欠席者 向委員

議事内容

- 1 各施策の検証
- 2 その他

【事務局】（開会宣言、配布資料確認）

以下、発言要旨

【高取部会長】 全体会で話があったように、部会では担当の施策において掲げる令和9年度末の目指す状態の実現に向けてPDCAサイクルを回すための審議をしたい。また、今回の審議は各施策目標に対する令和6年度終了時点の進捗の検証なので、個別の事業に関して改善点や変更点の議論をする場ではないことを予め申し上げる。

基本的施策1 市民自治活動・学び

施策の主な方向性1 持続可能な身近なコミュニティづくり

【清水委員】 施策シートに書かれている効果は実際に行われたことだと思う。目標は持続可能な身近なコミュニティづくりに向けて自走していくことだと思うが、自走に繋がる兆しが見えたか。あるいは、補助金の終了後に活動が継続しな

いかもしれないことを示唆しているのか。

【地域コミュニティ推進課】 生駒市では「まちのえき」という名称で、自治会の集会所等の拠点において、100歳体操や各種移動販売、カフェの開催など、複数事業を同時に展開することによって、高齢者だけでなく、若い世代を含む多様な世代が集まる交流の場づくりを支援している。KPIとしては令和9年度までに24の拠点を設けるため、毎年3拠点ずつ増やすことを目標にしている。令和6年度には2つの拠点が新たに立ち上がった。課題は補助金終了後に自走する仕組みだと認識している。現在の補助金はスタートアップ時の資金援助として、3年間で合計100万円の補助金の交付をしている。

この事業の主体は自治会であり、一般的な自治会活動に対する補助金を別途交付しており、4年目以降はこの補助金を活用されているところもある。また、カフェを行う際に寄付という形で任意の金額を収めていただいている事例もある。しかし、大きなイベント等を行うためには相応の資金が必要となるため、やはり一定の収益確保が課題である。この課題を解決するため、市ではイベント実施時にキッチンカー等の移動販売を依頼するマッチングの支援を行っている。ただし、自治会加入率の低下や担い手不足といった根本的な問題があり、資金面に加えて、担い手の育成も課題である。

【松山委員】 余力のある自治会は少ない。資金面や担い手不足への対応について自治会にどのように説明しているか。

【地域コミュニティ推進課】 スタートアップの経費は現在の補助金で対応できているが、まちのえきの取組が長期間継続した際に運営資金が不足するという問題が生じている。無償のボランティアでは運営スタッフが集まらないため、有償ボランティアで人手を募っている自治会も増えている。そのため、参加費を徴収したり、自治会費の一部を充てたりといった工夫をしていただきたいと伝えている。ただ、人材育成や担い手不足の問題は一朝一夕では解決が難しいと考えており、地域の活動に若い世代を呼び込むことは市も自治会も苦慮している。

【高取部会長】 まちのえきは市として力を入れており、高齢福祉や介護の会議でも話題になる。多世代交流ということで、地域共生の意味合いもあると思う。ただ、まちのえきのコンセプトが市民に正しく浸透しているのか疑問に感じ

る。単なるイベントだと感じている市民も多いのではと心配している。市として、手応えはどうか。

【地域コミュニティ推進課】 まちのえきのコンセプトの浸透については、不十分だと感じている。本事業の取組主体をまずは自治会にお願いしており、これまで自治会長が集まる場で事業の周知を行ってきた。そのため、自治会長や役員の方々に対してはある程度浸透しているが、多くの若い市民は自治会活動にそもそも参加しておらず、自治会長を通じた情報伝達には限界があると感じる。

まちのえきの運営等に対して、自治会の役員等に限らず、若い世代の住民にも参画いただくためのアプローチとして、昨年度は自治会回覧を使い、一般的な自治会活動とは別に、地域での活動に興味・関心のある方のご相談くださいという内容のチラシを回覧するとともに、今年2月には住民主体の地域活動に関するセミナーを開催した。本事業は地域の拠点に多様な世代が集うことで、地域の活性化はもちろん、高齢者の外出機会の創出や孤立孤独支援にも繋がる取組なので、なるべく多様な世代に地域活動に興味をもってもらえるようアプローチしたい。

【大谷委員】 各自治会に福祉分野の担当者が入るなど、社会福祉協議会との連携はあるのか。

【地域コミュニティ推進課】 現時点で、福祉の観点からのアプローチはできていない。地域コミュニティの課題は市民自治と福祉の二つの要素があり、それらをどのように融合していくかは大きな課題である。それぞれの観点から協力を求める地域のメンバーは共通していることが多く、様々な行政分野から個別に協力依頼をすると地域の負担が大きくなるので、こういった話し合いの場を形成するのがポイントだと考えている。

【高取部会長】 地域包括支援センターの相談ブースが出展するまちのえきがあったと記憶している。

【地域コミュニティ推進課】 地域包括支援センターの出展実績はあるが、自治会と地域包括支援センターはまだうまく連携が取れていないことが多い。

【高取部会長】 まちのえき全体としては多世代が参加できる仕組みになっているが、高

齢者は高齢者向けのブースに、若者は若者向けのブースに行くということで、訪れる場は一緒だが参加するブースは違って、結局は多世代が交流しないのではないか。

【地域コミュニティ推進課】 異なる分野の課題を地域で一緒に解決しなければならないが、現状としては福祉分野とコミュニティ分野が別々の課題として捉えられており、それらを同じ土俵に上げるためのプラットフォーム作りは課題の一つとして認識している。

【高取部会長】 事業の進捗としては、まずまずの手応えということか。

【地域コミュニティ推進課】 そのとおりである。ただ、担い手不足は非常に大きな課題である。

【高取部会長】 今後に期待している。事業を進める上で、運営側の声だけでなく、実際の参加者の声も重要であると考えているが、聞き取りなども考えているか。

【地域コミュニティ推進課】 取組主体が自治会なので、行政が直接参加者アンケートを取ることはしていない。一方で、現在まちのえきに取り組む自治会に年に1度は集まっていただき、ノウハウや課題の共有のための意見交換会を行っている。

【松山委員】 参加する人の意見は貴重である。参加者の意見を聞く機会をもっと作った方が人を集めるための近道だと思う。主催者が考えていることと、参加者が考えていることは違うケースもある。

【清水委員】 アンケートや意見を聞くことは重要だが、行政がやることではないと思う。例えばアンケート用紙のフォーマットを提供し、補助金を活用する場合には参加者の意識調査を義務付けることが今後の事業発展に繋がると思う。

施策の主な方向性2 主体的な学びの場の創出

【大谷委員】 学童には図書の団体貸出しを行っているのか。

【図書館】 学童への団体貸出しは行っていない。以前は学童からの貸出依頼があったが、最近はなくなっている。

【大谷委員】 他市では夏休み期間に学童に対して配達で図書の貸出しを行い、選書も図

書館で実施しているところがある。子どもたちが本に触れる機会として、よい取組だと感じている。

【図書館】 生駒市では学校図書館が根付いてきている。今後は学童と連携した読書推進も検討したい。

【中垣委員】 今年度、図書館本館のリニューアルに関する事業が進んでいくと思うが、市民が参画できる取組はあるのか。

【図書館】 図書館本館リニューアルの実施設計にあたり、令和5年度にワークショップを行い、実際に市民と図書館の中を歩きながら改善点の洗い出しを行った。その結果を踏まえ、多目的室やイベントスペース等、市民の自発的な活動に使える空間を整備し、館内のレイアウトを変える予定である。

【清水委員】 図書館で活動される団体は何団体ぐらいあるのか。

【図書館】 図書館の関係団体は15団体ほどあり、その他個人ボランティア等もいらっしゃる。

【松山委員】 高齢の方は図書館に行かれる方も多く、外へ出るために服装を考えたり、知り合いと会ったらお話ししたり、高齢者の外出・交流の機会にもなっているので、より気楽に行ける図書館を作っていただきたい。

【図書館】 そういったお声も多くいただくので、館内でお話しができる図書館を目指している。一方で、静かに図書を読みたい人もいらっしゃるなので、読書用のエリアを個別に作りたい。また、図書会館の1・2階のロビーにソファ席を整備し、そこに新聞を置く等、建物全体で市民がゆっくりしていただける場所を作っていきたい。

【松山委員】 館内での飲食は可能となるのか。

【図書館】 まだ計画段階だが、コーヒーの販売をしてくださる社会福祉法人がいらっしゃるなので、日や時間を決め、部分的にそういったサービスを行う企画はしている。

【清水委員】 学びと推進活躍推進の事業について、インクルーシブアートワークショッ

プは具体的にどのような内容だったのかを教えてください。かなり好評だったようだが、インクルーシブやダイバーシティという文言があるイベントであっても、場合によっては最終的な地域課題や社会課題の解決に行きつかない事例もあり、こういうイベントについては内容を把握しておく必要がある。

【生涯学習課】 生駒市では、以前からあらゆる方がウェルビーイングに生きるために、主体的に学び、交流する場や機会づくりの一環として、障害の有無や年齢、性別などに関わらず、誰もが参加できるアートワークショップをしたいと考えていた。障害の有無に関わらず学ぶことができる機会をつくることで、多様な価値観が尊重される市民意識の醸成を目的として実施した。結果としては23名の参加者があり、2回のワークショップで出来上がった作品を駅前の商店街で5日間展覧会をさせていただき、約250名の方が来られた。親子での参加が多かったが、1人で参加された高校生もいたり、様々な方が一緒に一つのものを作り上げる機会として、非常に良い事業だったと考えている。

【清水委員】 多様な方々の交流が深められたことで、地域課題の解決に繋がったということか。

【生涯学習課】 ischool という事業においては働き盛り世代を主な対象としており、民間の事業とは違う点が3点ある。1つ目は地域や社会の課題についてしっかり考えるという点、2つ目が一方的な講義ではなく参加者同士の対話や交流、繋がりづくりを図っている点、3つ目が市民との協働で講座を企画・実施している点である。今回のインクルーシブアートワークショップではその3点が重なった事業であると考えている。

【清水委員】 費用対効果を考えるともう少し参加人数が欲しいところかと思うので、そのあたりの改善は必要だと思う。

【生涯学習課】 今年度は予算がないので大きな事業はできないが、インクルーシブの取組に関しては続けていかなければ意味がないので、費用対効果を考えながら取り組んでいきたい。

【大谷委員】 高齢者教育推進事業について、いこま寿大学を卒業した後の受け皿として、いくつかのOB組織があると思うが、卒業生の何%ぐらいが加入されている

のか。

【生涯学習課】 現在3つのOB組織があり、卒業式でご案内している。具体的な数字は把握していないが、加入される方は割と多いと伺っている。

【大谷委員】 そういう方たちの活躍する機会がより広がることを願っている。

【高取 部会長】 図書館のボランティア活動の募集は他の分野に比べると若干ハードルが低いように感じるが、手応えはどうか。

【図書館】 図書館のボランティア養成講座には何種類もあり、どの講座についても講師の先生から生駒市は集まりが良いと言われている。また、定着に関しても比較的良い状況である。

【高取 部会長】 いこま寿大学から図書館のボランティアにつながるという連携はあるのか。

【図書館】 いこま寿大学の実務講習に本の修理というメニューがあり、一定期間練習していただいて、図書館ではなく学校図書館で活躍していただいている。学校図書館の先生には時間が足りないという課題があり、好循環を生み出している。また、社会福祉協議会やユースネットいこまからの案内で、社会に出る前の一つのステップとして図書館でのボランティアを選んでいただいている。

【高取 部会長】 「働く大人の週末ゼミ」の内容や参加者層とその評価等について、教えていただきたい。

【図書館】 激動の時代においては、大人もずっと学び続ける必要があるという思いから、働く人たちをターゲットにした講座を企画した。初年度は「論語」や「人生に問を立てる」といった、誰もが楽しめるというよりは少し歯ごたえのあるテーマで講座を開催し、毎回20~30人、多いときで40人以上集まっていた。生駒市民の興味・関心の高さを感じており、もっと伸ばしていけると思っている。今後とも続けていきたい。

施策の主な方向性3 文化振興による市の魅力向上

【清水委員】 市史編さんについて、資料等を作った後に皆さんに見てもらうことや知っ

ていただくことが重要だと思うが、具体的な今後の展開を教えてください。

【図書館】 今年度から本編、通史 1 巻から 4 巻までを毎年度、時代順に発刊する。発刊したら年度ごとに販売し、ホームページや広報紙などでPRも行う。また、収集した資料で貴重なものについては、これからアーカイブ作業を施し、ホームページ等で見えていただける仕掛けを作っていきたい。市史についても電子書籍などの書籍化を行い、電子でも見えていただける環境を整えたいと考えている。

【清水委員】 オープンデータ化ということか。

【図書館】 生駒市電子図書館で公開するなど、他のやり方も考えながら取り組みたいと考えている。

【松山委員】 視覚障害者用に点字版は作るのか。

【図書館】 点字書籍を見る方が減っておられ、電子書籍化したら音声もしくはボランティアの音訳を考えているので、点字書籍の制作は考えていない。

【高取 部会長】 市史はふるさとミュージアムに置いているのか。

【図書館】 令和7年4月18日から、市内5図書館、市役所生涯学習課、ふるさとミュージアムで閲覧いただいたり、お求めいただいたりできる。

【中垣委員】 「音楽のまち生駒」推進事業について、新しい団体からの提案・出演が少ないという課題があると思うが、現状や改善点を教えてください。

【生涯学習課】 今年度、新たな出演者の発掘のために新たな試みをしようと思っている。現在の「市民みんなで創る音楽祭」については、応募の際に複雑な書類をたくさん書いてもらう必要があり、そのハードルの高さ故に、しっかりとした団体にしか応募いただけていないという課題がある。そこで、今年度はチャレンジ枠としてより手続きを簡略化し、イオンモール登美ヶ丘店の一角をお借りして1～2曲演奏いただく枠の創設を考えている。チャレンジ枠にご出演いただいた方には、本公演を準備段階から見ていただき、本公演の出演に繋げるよう取り組みたい。

【高取 部会長】 市史編さん事業について、今後の方向性としては市民が入手しやすい価格方法を設定するとなっているが、高価になりそうということか。

【図書館】 昨今の物価高騰で、紙代も非常に上がっている。市史一巻当たり大体 750 ページほどで考えており、多くの部数を作るわけではないので、1巻あたり1万円近い単価になる。それでは市民の手に取りやすい価格ではないと考えているので、入手しやすい価格設定を模索している。

【高取 部会長】 最近、生駒のアンテナショップである生駒駅前の「おちやせん」が閉鎖したというネガティブなニュースが入ってきたが、文化振興による市の魅力向上に対して影響はないのか。

【生涯学習課】 駅前のアンテナショップがなくなったことで、駅にたまたま立ち寄った方が生駒市の物産等を見れなくなるため、非常に残念だと感じている。

ただ、文化継承という意味では、生駒ふるさとミュージアムの来館者数が今年度中に10万人に到達する見込みであり、記念イベントの開催や記念グッズの制作も考えている。また、ここ数年は小学校の学習の一環として茶道体験を実施しており、その費用を補助している。今はまだ全校までは普及していないが、今後全ての小学校で実施していただけたらよう支援していきたい。

【高取 部会長】 今後、生駒市は「音楽」推しでいくつもりなのか。

【生涯学習課】 「市民みんなで創る音楽祭」も今年度で10周年を迎えるので、記念行事を行いたいと考えている。生駒市においては、小学校も中学校も毎年吹奏楽の全国大会に出場されている学校が多く、その卒業生たちが大人の吹奏楽団を作っておられる。そういった背景から、歴史的に音楽のまちというイメージが築かれている。今もその流れが続いているので、音楽のまち生駒は今後しばらく推進していく予定である。

【高取部会長】 茶釜という歴史的な部分に依存するのではなく、音楽という文化的な部分にも力を入れて、市の魅力として推進していくのは良いと思う。

基本的施策2 人権・多文化共生

施策の主な方向性1 人権課題に対する取組の推進

【中垣委員】 多言語通訳システム「KOTOBAL」を導入されたかと思うが、その他

の翻訳アプリとはどう異なるのか。

【人権施策課】 KOTOBALでは、行政用語に対応したAIによる機械通訳と、画面上に実際の通訳者が映し出されるビデオ通訳の両方の対応が可能であることが特徴である。

【松山委員】 令和6年度に導入してから、どのような方法で、どの程度活用されているのか。

【人権施策課】 KOTOBALは32の外国語とやさしい日本語に対応しているタブレットである。1台しか導入できていないので普段は人権施策課に置いており、事前に外国の方が来訪されることがわかっている場合は、各課から予約していただき貸し出している。また、突然来られたときでも、端末が空いてれば貸し出している。

昨年度5月に導入して以降、幼保こども園課や健康課、生活支援課の窓口等で計24件の貸出し実績があった。特にトラブルもなく、直感的に操作ができ、使いやすいと評価している。ただ、現在の契約の範囲では30分まで利用可能だが、30分を超えると追加料金が必要となるため、一旦30分でビデオ通訳の通話を切り、必要があればもう一度繋ぎ直している。

【松山委員】 市民が来られる窓口等に1台ずつ置くというのは難しいのか。

【人権施策課】 昨年度の利用実績が年間24回程度なので、複数台導入するのは今のところ難しいと考えている。令和6年度に導入した時点では、まずは1台導入し、利用件数が増えるようであれば複数台の導入も検討する想定をしていた。

【塗本委員】 今後は30分を超える追加料金範囲での使用も考えているのか。

【人権施策課】 利用時間が長くなると通訳者の負担が大きいという事情もあるため、今のところなるべく追加経費のかからない方法で対応したいと考えている。

【松山委員】 奈良先端科学技術大学院大学（以下「NAIST」という。）の留学生の家族が北コミュニティセンターのみっきランドに行かれても、言葉が通じないことから行かなくなってしまうという話を聞いたことがある。そういうことを踏まえると、必要などころには予め置いておくほうが良いのではないか。

【人権施策課】 当該タブレットはネットに繋がるので、事前に予約していただけたら市役所外での利用は可能である。また、行政用語への対応が必要なければ、その他のアプリ等でも対応可能なので、各窓口ではそういったものも活用されている。

【松山委員】 230万円かけて導入したのであれば、工夫してより効果的に使っていただきたい。

【高取 部会長】 各講座や集会において集客が難しいようだが、実際参加者の方が集まりにくい現状はあるのか。

【人権施策課】 啓発活動は地道に取り組んでいかなければならないと考えている。平日だけでなく、休日も利用しながら講座等を開催していきたい。

【高取 部会長】 人権教育はテーマを考えることが非常に大変だと感じる。最近のトレンドを踏まえつつ、テーマによって参加者の集まり具合が大きく左右されると思うが、集りやすいテーマはあるのか。

【人権施策課】 比較的、映画上映は集客が良いと感じる。昨年の夏に同和問題をテーマにした映画「破戒」を取り扱ったところ 400名を超える参加があった。ただ、講演会になるとこちらが本当に知っていただきたい内容、例えばハラスメントや性の多様性というテーマにはあまり申込みがないのが現状である。参加者へのアンケートでは、人権に対する理解が非常に深まったという回答をしていただいていたたり、講演を聞く前と後でネガティブな印象がポジティブな印象に変わっていたりという取組の効果は感じている。

【高取 部会長】 そもそも施策目標の「お互いの個性を認め合い、尊重し、支え合う市民が増えている」のかどうかを確認することは非常に難しいと思う。だから取組の進捗が思うように進んでいるのか、目標を達成できるのかというのは判断が難しいと思うが、そういった課題を踏まえて成果の見えやすいパートナーシップ関係の事業に重点を置いて全体の方向性の進捗を図ろうとしているのか。

【人権施策課】 パートナーシップやファミリーシップ宣誓制度で施策の進捗を測るとするのは狭すぎると感じる。こういう制度を啓発することで、マイノリティ

に対する理解を社会全体に浸透していく必要があるが、カミングアウトせずに隠して生きてらっしゃる方は多いと思う。こういった制度があるからといって、すべての当事者が利用するわけではない。

【大谷委員】 子どもの権利条約について、子どもを含め市民が学ぶ機会は作られているか。

【人権施策課】 人権施策課からのアプローチはできていない。こども政策課で「こども計画」というのを作っており、その中には記載されていると思う。

【大谷委員】 この条約の内容を知っていただくことは非常に大事で、子ども自身が自分には権利があるということを幼い頃から知っていくことが人権意識を持つことにつながると思う。

【人権施策課】 子どもの関係で申し上げますと、性の多様性に関する出前授業として学校に講師を派遣したり、男女共同参画の方でもデートDVについて周知したり、様々なアプローチをしている。

【高取 部会長】 課題のところインターネットを悪用した人権侵害等、新たな人権課題への対応とあるが、具体的な対応はどういった内容なのか。

【人権施策課】 例えば、インターネットを利用した人権侵害にあたる動画掲載等があるので、動画投稿プラットフォームの事業者に対して削除依頼をかけるといった取組になる。

【高取部会長】 人権侵害への対応として、生駒市民に対する案件をすべて処理しているのか。

【人権施策課】 生駒市の地域に関わる部分に対応している。昨年から今年にかけて、地域を撮影した動画がインターネット上に掲載されているとの報告があり、これは差別を助長する動画であるとして県内の自治体で組織してる協議会に報告し、協議会とともに法務局やプロバイダーに削除要請を行った。なお、その協議会ではインターネットステーションを設け、週2日はモニタリング活動を行っている。

【高取 部会長】 新たな人権課題とは、どういう内容なのか。

【人権施策課】 インターネットを利用した人権侵害の他、ハラスメントや性的マイノリティの方に対する偏見や差別といったものである。

施策の主な方向性2 多文化共生の推進

【高取 部会長】 生駒市の外国人住民は近隣自治体に比べると少ないのか。

【人権施策課】 県内では奈良市が最も多く、次に橿原市が生駒市と同規模の人数がおられて、生駒市は県内3番目に多いという状況である。

【高取 部会長】 大阪府内の自治体では国籍別の交流の場を設けているところもあり、驚いたことがある。生駒市では全体数があまり多くはない中で、国籍がバラバラだと個別の対応は難しいかと思うが、対策していることはあるか。

【人権施策課】 約1,500人の外国人住民の内訳として70カ国程あり、個別の対応には苦慮している。国籍別のコミュニティもあるそうだが、行政としては関わりを持っていない。日本語教室を北コミュニティセンターと図書館で実施しているおり、そこに来られた方に情報をお伝えし、その方からお知り合いの方にも伝えていただくよう取り組んでいる。

【塗本委員】 日本語教室の需要はあるのか。

【人権施策課】 多くの方に受講いただいている。

【塗本委員】 ある程度日本語を話すことができる方がもっと学びたいから受講されているのか。それとも、全く日本語を話せない方が受講されているのか。

【人権施策課】 どちらもいらっしゃる。技能実習生やNAISTの留学生は少し日本語を学んでから来られるので、まったくわからないわけではない。ただ、帯同して来られたご家族の方には日本語も英語もわからず、母語しか話せない方もおられ、そういう方も日本語教室には来られる。

【塗本委員】 そういった方の学習目的としては、就労等を目指しているのか。

【人権施策課】 就労は目指しておらず、日常生活で使える日本語を学んでいただくこと

を目的としている。また、日本語を学ぶだけでなく、住民との交流も含めて、日本や生駒の文化等、様々なことを学んでいただけるよう日本語のできる住民と学習者がマンツーマンで実施している。

【清水委員】 教えられている住民ボランティアの方は何人ぐらいいるのか。

【人権施策課】 北コミュニティセンターでは定員 30 組、図書館では定員 15 組で実施している。中には 3 人の受講生を 1 人のボランティアで見ているグループもある。学習支援をしてくださる住民ボランティアに向けては研修を行っている。

【清水委員】 母語しか話せない方に対しては、母語で教えるのか。

【人権施策課】 なるべくやさしい日本語を使い、テキストやアプリ等を使いながら対応していただいている。

【高取 部会長】 N A I S T に来られている留学生本人はともかく、ご家族の方が地域に馴染めず孤立していることがある。話し相手すらいないこともあると聞くが、今後増えることが予想される帯同家族の孤立対策や共生に向けた取組を何か考えていかなければならない。

【人権施策課】 N A I S T の中に留学生に対する支援センターがあるので、そのあたりのケアはしてくださっていると思う。

【高取 部会長】 この分野も進捗を測るのが難しい部分もあると思うが、指標は市民主体の国際交流取組箇所数となっている。これはどういった内容になるのか。

【人権施策課】 自治会が取り組む複合型コミュニティ等における市民主体の国際交流の取組が増加することで、外国人住民との相互理解の促進に繋がると考えている。まちのえきで実施されている様々なイベントの一つとして、例えば日本語と外国語をお互いに教え合ったり、お互いの郷土料理を教え合ったりといった活動等を通じて、外国人の方にも主体的に地域の活動に参加していただき、地域の中で顔の見える関係性ができることを目標にしている。

【清水委員】 そういった活動をされているかどうかは情報収集をしないとわからないと

思うが、どのように把握しているのか。

【人権施策課】 今年度、そういった活動をされている方に集まっていただく座談会的な会議を開催し、実際の外国人住民のニーズも含めてお伺いしたいと考えている。昨年度、地域コミュニティ推進課でまちのえきを対象とした説明会を実施された際に説明し、興味を持っていただいた自治会もあったが、実施までは至らなかった。

【清水委員】 ボランティアで実施されている可能性もあるかと思う。

【人権施策課】 いこま国際交流協会というNPO法人で、市全域を対象として外国の料理などを通じた文化交流や気軽に立ち寄れる交流の場づくり、勉強の支援といった活動をしてくださっている。ただ、災害時のことも考えると、市としては日常生活の範囲として、自治会単位かもう少し大きいエリアで顔の見える関係性をつくりたいと考えている。

施策の主な方向性3 男女共同参画の推進

【清水委員】 男女共同参画は意識改革が重要になってくるかと思うが、そういう意味では「男女ともに働きやすいとの意識改革」という事業が重要なポジションを占めていると思う。この中の取組で「効果的に対象者へ啓発することができた」と書かれているが、対象者とは誰かを教えていただきたい。それによって、本当にそれで十分なのかどうか判断できると思う。

【ダイバーシティ推進プラザ】 それぞれ研修や講座ごとに対象としているターゲットがあり、各対象者に効果的に伝える方法を模索している。

【清水委員】 男女共同参画という分野では男女ともに理解を促すことが必要だと思うが、例えば子育て期の男女に関する課題に関して、それが子育て期の男女の課題に留まらず、その他の世代の人が理解し支援することが必要になる。そういう意味で、この対象者というのは全ての方々を対象にしているのか。それとも、どこか抜け落ちている対象者がいないかを知りたい。

【ダイバーシティ推進プラザ】 テーマによっても違うが、子育て支援という分野では企業向けや各家庭のお父さん、お母さんが対象のもの等、それぞれの考え方を変え、みんなで同じ意識を持っていただくための講座を開催

している。

【清水委員】 子育て期の方々を対象にしたものと、子育てとは関係のない例えば介護を行うような世代の方々、それから介護も育児もしないような方々に対する支援策をそれぞれ考えることで、社会全体の理解促進に繋げた事例もあるので、対象者という考え方をもう少し幅広く持った方がいいかもしれない。

【高取 部会長】 男女共同参画という言葉で見ると、どちらかというとな性に焦点が合った言葉だと感じるが、男性はどのように受け止めているのだろうか。何か把握しているご意見等はあるのか。

【ダイバーシティ推進プラザ】 第4次男女共同参画行動計画の策定にあたりパブリックコメントを行ったところ、男性からのご意見で、女性を優遇する施策が主な方向性になるのではという懸念を抱かされていた。生駒市としてはサブタイトルを「ダイバーシティ推進プラン」としたように、男女という枠組みに捉われず、誰もが自分らしく活躍することを掲げて行動計画を作った。今後も誤解のないよう推進していきたい。

【高取部会長】 男女共同参画という言葉もだんだん時代に合わなくなっている。男女という言葉自体が使いづらくなっているし、女性の活躍や社会参加は当たり前になっている。

【人権施策課】 男女ともに働きやすい職場等への意識改革というのが令和6年度の事業名であるが、令和7年度は性別に関わらず誰もが働きやすい職場等への意識改革に改名した。

【高取 部会長】 課題や今後の取組の方向性において、参加者が伸び悩んでるという記載があるが、この原因はどう分析され、今後の見込みがあれば教えてください。

【ダイバーシティ推進プラザ】 働きやすい職場というところで、商工会議所等を通じて研修を行っているが、集客が難しく、市内事業者に浸透させることが難しい状態である。働いている時間帯に参加いただくのが難しいようであれば、開催日時や場所を変えて開催するなどの工夫を行いたい。また、事業者ニーズを把握する調査も行いたいと考えてい

る。

【高取部会長】 事業者等に興味・関心を持っていただけるテーマになっていないという可能性があるのでは。先ほど時代の変化についての話もあったが、そのあたりはどう考えているか。

【ダイバーシティ推進プラザ】 ワークライフバランスに関すること等をダイレクトにお伝えすると敬遠されやすい印象がある。昨今、人材が不足している現状がある中、人材が定着しない原因を明らかにして、誰もが活躍できる職場にすることで成長している企業の事例を伝えるよう工夫している。また、求人の方法について、ホームページやポスター等に関するノウハウをお伝えする講座は人気が高いので、そういった方向を考えている。

【清水委員】 子育て期の女性に対して、自分の働き方としてどのような状態を希望するかという調査と、その地域の中小企業にどのような人材が欲しいかを調査をして、そのマッチングを試みる研究をしたことがある。その事例で見えてきたのは、企業側は業種によって欲しい人材像が違っていることと、就労を希望する子育て期の母親に関しては家族のことを大切にしてくれる企業であれば働きたいという要望があるということ。そういったマッチングの支援として、例えば生駒市民で現在働いていない方々の生の声というのは市内事業者からのニーズがあると思うので、そのあたりのアンケート調査をするのも良いかと思う。

【高取 部会長】 こういった事業を推進していく上で、事業者の方はネガティブな受け止めなのか。

【ダイバーシティ推進プラザ】 バブル期に成功体験を持っておられる事業主が多く、その時の成功体験から抜け出せない方が多い。研修を通じて、今は違う時代になってきたということを伝えている。

【高取 部会長】 事業の進捗状況自体は概ね順調に進んでいるという評価ということで、引き続きよろしくお願ひしたい。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)